

(参考様式5)

事業活用活性化計画目標等評価報告書

作成日：令和4年9月7日

ふりがな	にしいずちょうちくかつせいかけいかく
活性化計画名	西伊豆町地区活性化計画
ふりがな	しずおかけん、にしいずちょう
計画主体名	静岡県（代表）、西伊豆町
計画主体コード	223069
計画期間	平成31年度（令和元年度）～平成33年度（令和3年度）
事業実施期間	平成31年度（令和元年度）
活性化計画区域	静岡県西伊豆町西伊豆町地区

1 事業活用活性化計画目標の評価等

(1) 事業活用活性化計画目標の達成状況

事業活用活性化計画目標	目標値 A	実績値 B	達成率(%) $C = B / A$	備考
雇用者数（新規就農者を含む） の増加	7人	8人	114%	施設勤務者数
新商品開発	4件	12件	300%	

(コメント)

静岡県西伊豆町に、農林水産物直売所「はんばた市場」を整備することにより、目標とした新たな雇用の創出、新商品の開発について、目標を上回る実績を達成した。

新規就農者の増加については、具体的数値目標は0人としているが、平成31年4月以降に2人の新規就農者が営農を開始している。

(2) 目標の達成のために実施した各事業の内容と効果

事業メニュー名	27 地域連携販売力強化施設	
事業内容及び事業量	農林水産物直売施設 1棟 292.35㎡	
事業実施主体	西伊豆町	
管理主体	西伊豆産地直売企業組合	
事業着手年度	事業竣工年度	供用開始日
平成31年度(令和元年度)	平成31年度(令和元年度)	令和2年5月22日
事業の効果	農林水産物等の販売拠点となる直売・加工施設を整備した結果、地元農林漁業者から仕入れた農林水産物および加工品を提供することで、町外もしくは地元からの集客により地元農林水産物の販売促進と雇用の創出に成果を上げている。また、未利用魚を活用し開発した商品を提供することで、地元漁業者の所得向上に繋がっている。	

(3) 総合評価及び今後の方針

(コメント) 地元農林水産物の活性化の拠点施設として農林水産物直売所「はんばた市場」が整備されたことにより、農林漁業者の生産意欲の向上および雇用の創出に寄与しているが、長引く新型コロナウイルスの影響もあり都市部からの集客が伸びない状況にある。今後は、新商品の開発など魅力ある店舗への取り組みを継続し、また、地元遊漁船で釣った魚を町の電子地域通貨「サンセットコイン」と交換し、はんばた市場で買い取る「ツッテ西伊豆」の取り組みと併せ、農林水産物および地域の魅力発信の拠点として地場産品の販売促進を行っていきたい。

(4) 第三者の意見

第三評価者	(所属) 中小企業診断士	(氏名) 秋田 豊
(コメント) コロナ禍の影響を受けながらも、SNS・メディア等を活用し、集客努力をされており、一定の評価はできる。 品揃えの充実化や陳列・POPの改善等により魅力を感じる店舗づくりができると良い。		

第三評価者	(所属) 三島信用金庫	(氏名) 渡邊 晃士
<p>(コメント)</p> <p>雇用者数、新商品開発と目標値を上回る実績。持続可能な地域に向けた雇用創出に繋がっている。</p> <p>コロナ禍で集客が難しいなか、前年を上回る利益を確保。委託金等に頼らない業務運営が伺える。</p> <p>コロナ終息後は更なる集客向上も見込まれることから、引き続き地域の主要施設としての役割を期待したい。</p>		

第三評価者	(所属) 株式会社静岡銀行松崎支店	(氏名) 林 剛志
<p>(コメント)</p> <p>地元の野菜などが店舗の中心に並べられており生産者の意欲向上に寄与していると思われます。また、魚類は水槽を利用することで西伊豆＝漁業のイメージが構築され観光面での貢献に繋がっていると考えます。</p>		

2 活性化計画の目標の評価等

(1) 活性化計画の目標の達成状況

活性化計画の 目標及び達成度	目標	農林水産物直売所を整備し、別途進めている都市部への販路開拓のための事業（歴史・自然の観光資源と地域素材を使った広域連携商品開発により首都圏から世界展開を目指す地域商社事業）と連携させ、地区内農林漁業の活性化を図る。		
		目標値 A	実績値 B	達成率 $C = B / A$
	雇用者数（新規就農者を 含む）の増加	7人	8人	114%
	新商品開発	4件	12件	300%

(2) 今後の方針

<p>(コメント)</p> <p>事業期間中の目標とした、雇用者数（新規就農者を含む）の増加、及び新商品開発についての目標を達成した。</p> <p>地域の拠点施設として、農林水産物および地元産物を活用した独自商品や地域商材の販売により魅力的な施設となる取り組みを継続し、地域内雇用の維持・増大を図り、はなばた市場を通じて農林水産業の活性化、については地域の活性化に寄与することを目指す。</p>
--

(3) 第三者の意見

第三評価者	(所属) 中小企業診断士	(氏名) 秋田 豊
(コメント) 観光客に加え地元の方にも愛される店舗となるよう、お惣菜、贈答品の充実化等品揃えの工夫や地元への広報活動も強化できると良い。(観光客依存だと売上変動のリスクが高い)		

第三評価者	(所属) 三島信用金庫	(氏名) 渡邊 晃士
(コメント) 農林水産業新規就業者4人と66%の達成率に留まったが、はんばた市場を核とした「ツッテ西伊豆」「サンセットコイン」との連携には、他では出来ない大きな魅力となっている。 生産者支援や西伊豆町の職の魅力発信施設としてみれば宣伝効果は高く、今後新規就業者獲得へ繋がるものと期待している。		

第三評価者	(所属) 株式会社静岡銀行松崎支店	(氏名) 林 剛志
(コメント) 休日、観光シーズンは盛況ですが、平日、オフシーズンの集客が課題だと思われます。 はんばた市場周辺を『道の駅』のような機能を持たせ長時間滞在できる施設づくりができると良い。		

【記入要領】

- (1) 計画主体コードは年度別事業実施計画に記入した番号とすること。
- (2) 「1 事業活用活性化計画目標の達成状況」のコメントには、目標が未達成となった場合は、その理由を記入すること。また、達成状況が低調である場合は実施要領第16の1の(3)のア及びイに基づき改善計画を作成し、農林水産大臣に提出すること。
- (3) 「2 目標の達成のために実施した各事業の内容と効果」は、事業メニューごとに作成すること。また、「事業の効果」には事業の実施により発現した効果(農山漁村の活性化に関連する効果)を幅広く記入すること。